

下田紅茶の会のご紹介

2002年11月、鳥取紅茶の会、藤原一輝さんと出会い、やぶきた茶葉を原料とした紅茶づくりによる地域づくりを勧められ、活動を始めることを決意しました。

まず茶農園を探すことから始め、農業関係者に相談、下田に唯一の茶畑(山間地・約500平方m)をみつけ、所有者の山田進さんに紅茶づくりの承諾をいただきました。山田さんはやぶきた茶を生産し、地元農協の製茶加工所で緑茶加工販売をしていますが、茶生産者の減少により製茶加工所が閉鎖することになり、茶生産をやるべきところでした。紅茶づくりに関わることで茶生産を継続することになりました。製茶加工は下田にその施設がないことと藤原さんに指導いただくことが多々あることと、その縁で鳥取県茶生産組合にお願いすることになり、現在もお願いしています。

1856年、下田に着任した米国初代総領事タウンゼン・ハリスが13代将軍徳川家定に紅茶(中国茶と思われる)を献上した史実と下田のキャッチフレーズが聞国のまちであること、2004年が下田開港150周年であることから紅茶の商品名を「開国下田紅茶」に命名しました。初年度(2003年)は一番茶をベリーティー(ストレート)二番茶をハリスティー(ハーブブレンド)としたが、2年目(2004年)からは一番茶二番茶両方で2種類を作ることとしました。3年目(2005年)にはブチャナーンティー(アッブルブレンド)し、7年目(2009年)は尊王の志士吉田松陰の名を冠したしよういんティーを追加しました。ベリー、ハリス、ブチャナーン、吉田松陰共に下田と縁がある開国俳人の名です。



14th

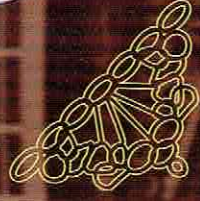
DOMESTIC TEA
SAMMIT IN SHIMODA

第14回 全国地紅茶サミット in 下田

～ようこそ開国の街・下田へ～

2015

11.28sat-29sun



主催：第14回全国地紅茶サミット in 下田実行委員会

共催：下田紅茶の会 全国地紅茶サミット世話人会

協賛：NPO 下田にぎわい社中
一般財団法人 地域活性化センター

後援：下田市、下田商工会議所、
一般社団法人 下田観光協会、
下田菓子組合、下田温泉旅館協同組合、
公益財団法人 下田市振興公社

お問い合わせ

第14回全国地紅茶サミット in 下田実行委員会

mobile 090-1418-8301 (担当：森)

この事業は、公益財団法人地域社会振興財団の
交付を受けて実施されています。

この事業は、長寿社会づくりソフト事業として
実施しています。



Shimoda